

# 地域で支えるコミュニティ交通人材育成事業

応募様式ア

三重県名張市

## 事業の基礎情報

|         |                                                                                        |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業実施地域  | 三重県名張市、三重県                                                                             |
| 人材育成の対象 | 市職員、各地域コミュニティバス運行協議会役員、有償ボランティア組織の生活支援コーディネーター及びサポーター、まちの保健室職員（地域包括支援センターランチ）、地域交通事業者等 |
| 習得するスキル | 交通に関する知見 ・ データ活用のノウハウ ・ コーディネートスキル                                                     |
| 人材育成の手法 | セミナー、勉強会、ワークショップ、協議会                                                                   |
| 人材育成の内容 | 多角的な視点から地域交通の在り方を議論し、データの分析・解析の手法を習得し、地域運営組織の人材強化を図る。                                  |
| 想定受講人数  | 100名                                                                                   |
| 想定育成人数  | 25名                                                                                    |

## 現状・課題

### （地域交通に係る人材の現状・課題）

名張市では、20年以上前から概ね小学校区である15の地域ごとにある「地域づくり組織」が主体・中心となり、それぞれの地域課題を自分事として捉え、自らで考え解決する住民自治を進めており、住民自治熟度の高さを生かし様々な事業を実施している。交通に関する課題も、交通空白地域では地域内に「地域コミュニティバス運行協議会」を立ち上げ、地域の移動ニーズに応じたバスを地域自らが運行主体となり地域交通を支えている。また、交通空白のない地域でもラストワンマイル等の課題に対応するため、福祉的観点から地域内に有償ボランティアを組織し、生活支援サービスの一環で外出支援事業を実施している。このように、公共交通のみならず、住民互助の外出支援サービスなど、地域資源をつなぎ合わせたネットワークとして地域コミュニティ交通を構築し、地域住民の移動手段を確保している。

これらの事業を展開するなかで地域コミュニティバス運行協議会では、経営スキルが培われつつあるものの、利用者が減少している現状にある中、運行実績や住民の意見等を踏まえたデータ分析・解析スキル、ノウハウの不足から、路線再編や改善等については行政主導になっており、地域を熟知している協議会の強みが再編等に活かされていない。また、生活支援サービスの一環として外出支援を行っている有償ボランティア組織においては、外出支援のニーズが増加しサポーターなど支え手の負担が増えている一方で、生活支援コーディネーターの交通に対するリテラシーが低く、公共交通の利用を選択できる要支援者に対し、外出支援サービスを提供するなど、支援・サービスの最適化が図られていない。

運輸局・運輸支局  
への事前相談

三重運輸支局

令和5・6年度共創モデル  
実証プロジェクトの補助有無

無

取組の概要

(事業の概要)

- 前述の課題を解決するため、以下①～④のプログラムを実施する。
1. セミナーの開催…名張市の地域交通に関して「交通」と「福祉」それぞれにおける現状・課題を共有し、共通認識を持つ機会を創出する。
  2. 交通のデータ活用勉強会…独自アンケートを含め、様々な交通データを素材として用い、データ分析・解析の手法を身に付けるためのインプットを行う。
  3. ワークショップの開催…①、②で得た知見をもとに各地域ごとにグループに分かれ、実践形式でデータの分析・解析に取り組む。
  4. 協議会の開催…①～③を踏まえて、各地域ごとの課題や方向性について意見を集約し、地域間で情報共有を図るとともに、本事業で育成された各関係者の役割の明確にしながら総括の場とする。

上記の取組を通じ、コミュニティバスを運行する地域コミュニティバス運行協議会においては、データ分析等のノウハウを身に着け、自主的に運行の改善や再編を推進する人材に育成するとともに、交通と福祉の両側面で地域における移動需要を的確に把握することで、更なる外出促進や質の高い交通サービスを提供できるようになる。

生活支援サービスを提供する有償ボランティア組織においては、本事業を通じて、生活支援コーディネーターの公共交通に対するリテラシーを上げ、個々の要支援者に対する支援の中で、最適なサービスを選択することにより、要支援者のウェルビーイングの向上に資するとともに、増加している外出支援サービスのニーズに対し、サービスの適正化が図れ、サポーターの負担軽減、持続可能なしくみにつながる。

また、三重県については、本市における公共ライドシェア等導入支援チームを設置すると同時に、市や育成対象者に対し、県内市町における好事例や県の支援等の情報提供を行うことで、本事業の質的向上を図るとともに、地域コミュニティバス運行協議会といった、地域が主体となって住民の移動手段を確保する県内でも先導的な取組の持続可能性向上に資する本事業について、県内市町に横展開し、県域全体における好循環を生み出す。

※プログラム実施に必要な関係者がいる場合、下記に具体的に記載してください。

| プログラム実施に必要な関係者                  |   | 関係者の役割                                    |
|---------------------------------|---|-------------------------------------------|
| 外部講師（交通×福祉分野）                   |   | 交通と福祉の2つの側面から、「地域交通のあり方」について講義をいただく       |
| 外部講師（交通データ分析分野）                 |   | 交通データを素材として用い、データ分析・解析の手法を身に付けるための講義をいただく |
|                                 |   |                                           |
| 事業主体において、これまで同種の育成事業に取り組んだ実績の有無 | 無 |                                           |

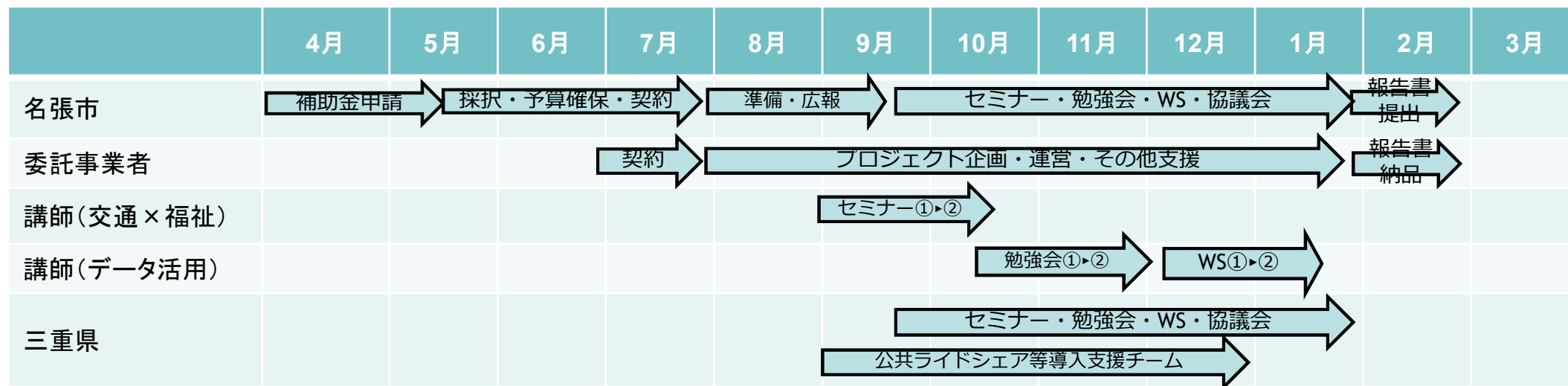
## 取組の詳細

### (事業実施手順・スケジュール)

1. セミナーの開催（2回）…市内交通の現状や高齢化などによる移動困難者の課題を共有し、共通認識を深める。地域公共交通と福祉分野における外出支援事業の役割を再確認する場とし、地域住民の移動需要に対する最適なサービス提供について理解を深め、多くの人に公共交通の役割や意義を認識してもらう。（9月・10月）
2. 交通分野のデータ活用勉強会（2回）…地域コミュニティバスの運行主体に対し、様々な交通データを活用したデータ分析・解析手法を習得するための講義を基礎編・応用編に分けて実施する。定量・定性の両面からデータを抽出・分析するスキルを身に付け、交通分野の専門性を高めることでより地域交通を発展させる人材の育成を目指す。（10月・11月）
3. ワークショップの開催（2回）…1～2で得た知見をもとに、意見交換の場としてグループディスカッションに取り組む。地域ごとでグループ再編を行い、各地域住民をメインターゲットとし、一部運行エリアに含んでいる隣接市町村職員や住民も交えて活発な意見交換を行うことで組織力向上・一体化を図る。また、それぞれの地域の情報を共有し、地域間を越えた広域運行も視野に入れた地域交通の構築にむけた検討材料とする。（12月・1月）
4. 協議会の開催（1回）…1～3を踏まえて、名張市民、市職員や交通事業者など様々な意見を集約し、総括の場とする。本事業を通じて、各地域において路線再編などの取組につなげていくことをねらいとして、各地域・各関係者の役割や方向性を明確にすることを目指す。（1月・2月）

【三重県】 ●本事業の中で、育成対象者に対し、県内市町における好事例や県の支援等の情報提供やアドバイスを行うことで、本事業の質的向上を図る。

●三重県により公共ライドシェア等導入支援チームを設置し、連携を図るとともに、随時情報を共有することで、県内市町村への横展開を図る。





## 取組の詳細

### （地域交通にもたらされる効果）

#### ・ データ活用力の習得による運行の改善・再編を推進する人材強化

地域コミュニティバス運行協議会（5地域）において、本事業を通じて、横展開可能な持続性のある「公共交通」について議論を深めるだけでなく、勉強会やワークショップを通じて交通事業者等から提供されるデータや交通に関する独自のアンケートを素材として用いたデータ分析・解析の手法を身に付け、それらを生かした運行形態の改善や新たな交通モードへの再編などを自ら立案するスキルを得、さらには交通と福祉の両側面で地域における移動需要を的確に把握することで、更なる外出促進や質の高い交通サービスを提供できるようになる。（想定育成人数：25人）

また、交通事業者も本事業に参画することで、地域主体の取組を共有するとともに、行政・地域・交通事業者等による公共交通ネットワークの役割分担や連携について、再度確認・整理することができる。

### （地域全体に及ぶ効果）

生活支援サービスを提供する有償ボランティア組織（11地域）において、本事業を通じて、生活支援コーディネーターの公共交通に対するリテラシーを上げ、個々の要支援者に対する支援の中で、最適なサービスを選択することにより、要支援者のウェルビーイングの向上に資するとともに、増加している外出支援サービス（11地域のうち7地域で実施）のニーズに対し、サービスの適正化が図れ、サポーターの負担軽減、持続可能なしくみにつながる。

また、こうした地域の支え手が地域交通並びに外出支援事業が地域住民の満足度向上に重要な役割を果たしていることを再確認することで、支え手自身の士気の向上に寄与し、持続可能な取組につながる。

### （補助事業実施後の予定）

育成された人材が、主体的に地域交通の交通モードの再編に向けた具体化から合意形成までを推進する。さらに、次年度以降も継続的に関与し、実証運行を見据えた取組や関係者との連携・調整を行うことで、持続可能な人材育成の仕組みを確立し、地域交通の強化・発展を図る。

また、福祉分野においては、定期的に公共交通に関するセミナーや勉強会等を継続することにより、最新の名張市の交通情勢の把握と交通リテラシーの更なる向上を図る。

## 資金面

名張市の一般財源による資金拠出の予定